

|       |               |    |      |           |                |
|-------|---------------|----|------|-----------|----------------|
| 学年    | 2学年           | 系列 | 人文科学 | 教科・科目・単位数 | 国語・現代文B・3単位    |
| 使用教科書 | 新編 現代文B(数研出版) |    |      | 副教材       | 常用漢字アルファ(桐原書店) |

1 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

あらかじめ教材を読み、漢字の読み・書きを確認し、新出語句の意味を調べておく。  
授業後は、教科書・ノートをよく見直し、内容を再確認し、疑問点を明らかにする。

② 授業における学習方法

辞書は常に座右に置く。文章を正確に読み取るよう努める。板書をただ写すだけでなく、自主的にメモを取りノートに書き込む。自身の頭をしっかりと働かせて考える。教授者や他の生徒の意見などにもきちんと耳を傾ける。

③ 家庭学習のポイント等

辞書は座右に置く。小テストに向けての学習や定期課題は、予定表に従って早めに取り組む。  
分かったことと分からないことが、それぞれはつきりさせられるところまで取り組む。

(3) 担当者からのアドバイス

本文とじっくり向き合い、自分の意見・感想を持つことから始め、考えをまとめることを丁寧に繰り返すことが「現代文」の実力を高める近道です。さまざまな文章を読んで、考える力を養おう。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)  |
|----|---|--|
| 前期 | I 期中間<br>随想<br>素直に生きる 森 博嗣<br>評論<br>手の変幻 清岡 卓行  | ○文脈に沿って内容を捉え、筆者の意見を正しく読み取る。<br>○抽象的な表現の内容を的確に説明し、筆者の着眼点の面白さをまとめる。  |
|    | I 期末<br>小説<br>山月記 中島 敦<br>評論<br>失敗談 外山 滋比古  | ○「李徴」の人柄や心情の推移を的確に捉え、人間が虎になるという作品設定の意図について考察する。<br>○意味段落のまとまりを意識して読み、本文のキーワード「セレンディピティ」の意味を理解する。                           |
|    | II 期中間<br>小論文1<br>①課題文型小論文の書き方<br>②小論文の構成<br>評論<br>ロボットと人間の未来 石黒 浩<br>小説<br>山椒魚 井伏 鱒二 | ○どう書けば《小論文》になるのかを知る。<br>○構成を検討しながら小論文にまとめあげる。<br>○本文で述べられる、新しい技術や情報機器の普及の過程やその影響を理解する。<br>○山椒魚が置かれた状況を押さえ、場面ごとの心情の変化を読み取る。 |
| 後期 | II 期末<br>評論<br>建築とは何か 藤森 照信<br>随想<br>伝える極意 長井 鞆子                                      | ○人のアイデンティティを保証する、建築固有の「懐かしさの力」という筆者の主張に関わる内容を読み取る。<br>○通訳である筆者が仕事を通して実感したコミュニケーションについての思いや読者に伝えたいことを捉える。                   |
|    | 年次末<br>小論文2<br>小説<br>こころ 夏目 漱石  | ○自分の進路に合わせて、さまざまな形式の小論文について学ぶ。<br>○各場面における登場人物の心情や行動を表現に即して的確に読み取り、小説の読解法について学ぶ。   |

4 観点別評価

110時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度                                     | 話す・聞く能力                                       | 書く能力   | 読む能力  | 知識・理解                                   |
|--|---|--|---|---|
| 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 | 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。 | 近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、以下の割合で総合的に評価する。

定期考査…70%程度 その他(課題テスト・漢字などの小テスト、提出物、授業態度など)…30%程度

|       |               |    |             |           |                |
|-------|---------------|----|-------------|-----------|----------------|
| 学年    | 2学年           | 系列 | 自然科学・総合ビジネス | 教科・科目・単位数 | 国語・現代文B・2単位    |
| 使用教科書 | 新編 現代文B(数研出版) |    |             | 副教材       | 常用漢字アルファ(桐原書店) |

1 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

あらかじめ教材を読み、漢字の読み・書きを確認し、新出語句の意味を調べておく。  
授業後は、教科書・ノートをよく見直し、内容を再確認し、疑問点を明らかにする。

② 授業における学習方法

辞書は常に座右に置く。文章を正確に読み取るよう努める。板書をただ写すだけでなく、自主的にメモを取りノートに書き込む。自身の頭をしっかりと働かせて考える。教授者や他の生徒の意見などにもきちんと耳を傾ける。

③ 家庭学習のポイント等

辞書は座右に置く。小テストに向けての学習や定期課題は、予定表に従って早めに取り組む。  
分かったことと分からないことが、それぞれはつきりさせられるところまで取り組む。

(3) 担当者からのアドバイス

本文とじっくり向き合い、自分の意見・感想を持つことから始め、考えをまとめることを丁寧に繰り返すことが「現代文」の実力を高める近道です。さまざまな文章を読んで、考える力を養おう。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)  |
|----|---|--|
| 前期 | I 期中間<br>評論<br>手の変幻<br>清岡 卓行  | ○抽象的な表現の内容を的確に説明し、筆者の着眼点の面白さをまとめる。   |
|    | I 期末<br>小説<br>山月記<br>中島 敦   | ○「李徴」の人柄や心情の推移を的確に捉え、人間が虎になるという作品設定の意図について考察する。  |
|    | II 期中間<br>小論文1<br>①課題文型小論文の書き方<br>②小論文の構成<br>評論<br>ロボットと人間の未来<br>石黒 浩 | ○どう書けば《小論文》になるのかを知る。<br>○構成を検討しながら小論文にまとめあげる。<br><br>○本文で述べられる、新しい技術や情報機器の普及の過程やその影響を理解する。 |
| 後期 | II 期末<br>評論<br>建築とは何か<br>藤森 照信  | ○人のアイデンティティを保証する、建築固有の「懐かしさの力」という筆者の主張に関わる内容を読み取る。   |
|    | 年次末<br>小論文2<br>小説<br>こころ<br>夏目 漱石                                     | ○自分の進路に合わせて、さまざまな形式の小論文について学ぶ。<br>○各場面における登場人物の心情や行動を表現に即して的確に読み取り、小説の読解法について学ぶ。           |

4 観点別評価

73時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度                                     | 話す・聞く能力                                       | 書く能力   | 読む能力  | 知識・理解                                   |
|--|---|--|---|---|
| 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 | 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。 | 近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、以下の割合で総合的に評価する。

定期考査…70%程度 その他(課題テスト・漢字などの小テスト、提出物、授業態度など)…30%程度

|       |                 |    |     |           |                                     |
|-------|-----------------|----|-----|-----------|-------------------------------------|
| 学年    | 2学年             | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数 | 国語・古典B・3単位                          |
| 使用教科書 | 改訂版 古典B (第一学習社) |    |     | 副教材       | 明快古典文法(いいずな)<br>新明説漢文(尚文)常用国語便覧(浜島) |

1 科目の目標

日本文学としての古文と長く日本文学に影響を与えた漢文に対する読解力を身につけるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深く養い、古典文学についての理解と関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉授業。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

予習: 音読、ノートづくりは必須。活用語を中心に、文法事項を確認する。辞書を積極的に引いておく。

復習: 繰り返し音読。ノートの整理。重要事項は十分におさらいしておく。

② 授業における学習方法

辞書は常に座右に。授業にしっかり参加しながら、要領よくノートをまとめる。逐語訳を心がける。

作品の時代背景などにも留意しながら、作品が読み味わえるようにする。

③ 家庭学習のポイント等

辞書は座右に。ノートを整理しながら、不明な点がなかったか確認する。文法事項の定着をはかる。

(3) 担当者からのアドバイス

受け身の学習では実力向上は望めない。地味な反復学習の必要な科目だが、前向きな気持ちで取り組むこと。

3 学習計画

| 考查  | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)                             |   |  |
|-----|---|---------------------------------------|---|--|
| 前期  | I 期中間<br>古文編 第I章 随筆(一)<br>『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事<br>漢文編 第I章 故事・寓話<br>『呂氏春秋』知音 | 6時間<br>5時間                            | ・構成や和歌の意味をつかみ登場人物の心情を読み取る。<br>・和歌に見られる修辞法を理解する。<br>・故事成語の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。<br>・再読文字・受身形・使役形・疑問形を理解する。 |  |
|     | I 期末<br>古文編 第I章 随筆(二)<br>『枕草子』雪のいと高う降りたるを<br>漢文編 第I章 古代の史話<br>『戦国策』戦勝於朝廷    | 7時間<br>15時間                           | ・語句の意味を理解し、文脈に沿って正しく読解する。<br>・文章の内容を明らかにし、主題を把握する。<br>・登場人物の関係や心情を読解する。<br>・句形に注意して、正確に口語訳を行う。          |  |
|     | II 期中間  | 古文編 第I章 物語(二)<br>『源氏物語』光る君誕生          | 11時間  | ・便覧などを参考に人間関係やその心情を把握する。<br>・敬語の種類・敬意の方向に注意して読む。                                   |
|     |   | 漢文編 第I章 項羽と劉邦<br>『史記』鴻門之会             | 16時間  | ・登場人物の心情を読み取り、作品を味わって読む。<br>・戦況を踏まえ、登場人物の主張を理解する。                                  |
|     | 後期  | II 期末<br>古文編 第I章 物語(二)<br>『大鏡』花山天皇の出家 | 15時間  | ・敬語を理解し、それぞれの気持に留意して口語訳をする。<br>・歴史物語の特色や文学的な位置づけを理解する。                             |
|     |   | 漢文編 第I章 志怪と伝奇<br>『幽明録』新死鬼             | 16時間  | ・疑問・反語など句形に留意して内容を理解する。<br>・登場人物の関係、その行動や心情をとらえる。<br>・便覧を参考に、当時の大陸諸国家の信仰や考え方を理解する。 |
| 年次末 |   | 古文編 第I章 日記<br>『更級日記』門出                | 10時間  | ・人間関係や身分を理解し、登場人物の心情を把握する。<br>・重要語句を調べ、助動詞や敬語表現に注意して読む。                            |
|     | 漢文編 第I章 儒家の思想<br>『孟子』   | 9時間                                   | ・儒家の思想について理解を深める。<br>・疑問などの句形について復習し、現代語訳する。  |  |

4 観点別評価

110時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度                                   | 読む能力   | 知識・理解                                   |
|--|--|---|
| 古典を読む能力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。 | 古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、課題テスト、小テスト、課題の提出状況、授業への参加の仕方などを総合的に判断し、評価する。

|       |                    |    |      |           |  |
|-------|--------------------|----|------|-----------|--|
| 学年    | 2学年                | 系列 | 人文科学 | 教科・科目・単位数 | 地理歴史・世界史B・3単位                                |
| 使用教科書 | 『改訂版詳説世界史B』（山川出版社） |    |      | 副教材       | 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』<br>浜島書店『要点整理ゼミナール世界史』 |

1 科目の目標

世界の歴史の大きな流れと枠組みを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。世界の特質と、文化の多様性を理解させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義。時には図書館での調べ学習が入ることもある。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

〔予習〕次に授業を受ける部分の教科書を読んでおく。内容を大まかにつかみ、地図を確認しておく。

〔復習〕その日学んだ部分の教科書、資料集、プリントなどを見直し、問題集を解いてみる。

② 授業における学習方法

板書事項をきちんと書き写す。さらに、重要ポイント、イラスト、略地図などもメモしておく。

資料集を十分に活用し、年表や地図など自分でチェックしておくこと。

③ 家庭学習のポイント等

教科書、資料集を見直し、問題集を解き、理解度を確認する。

歴史小説や映画なども参考になる。夏休みや冬休みを利用し、チャレンジしてみよう。

(3) 担当者からのアドバイス

普段から新聞やテレビのニュースに関心を持ち、世界の動きに注目しよう。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                     | 学習内容(ねらい)   |
|----|-------------------------------|---|
| 前期 | I 期中間<br>第1章 オリентと地中海世界      | 文明の発生、オリент世界とギリシア・ローマなどの古代地中海文明を学ぶ。              |
|    | 第2章 アジア・アメリカの古代文明             | インドの古典文明・中国の古典文明・南北アメリカの古代文明を理解する。                |
|    | I 期末<br>第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 | トルコ人などの遊牧民が果たした役割と中国の分裂時代・隋唐時代を考察する。              |
|    | 第4章 イスラーム世界の形成と発展             | イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大と文化を学ぶ。                       |
|    | II 期中間<br>第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展   | ローマ帝国滅亡後のヨーロッパ世界の形成と、キリスト教の影響を理解する。               |
|    | 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開         | 遊牧民の発展による征服王朝とモンゴル帝国を学ぶ。                          |
| 後期 | II 期末<br>第7章 アジア諸地域の繁栄        | 明・清を中心とした東アジアや、オスマン帝国・ムガル帝国について学ぶ。                |
|    | 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成              | 大航海時代・宗教改革・ルネサンスの影響のもとに、ヨーロッパ世界が近代に向かっていく課程を理解する。 |
|    | 年次末<br>第9章 近世ヨーロッパ世界の展開       | 絶対主義・啓蒙専制主義の成立と、その基盤となる商業覇権の推移について理解する。           |
|    |                               | 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立                            |

4 観点別評価

計110時間（48分授業）

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。 | 世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 世界の歴史に関する書資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。 |

5 評価方法

上記の観点をつまみ、定期考查の成績・小テスト・課題プリントの成績などを合算する。

授業態度はもとより、ノート提出・その他の提出物など、すべて評価の対象となる。

|       |                    |    |             |  |               |
|-------|--------------------|----|-------------|--|---------------|
| 学年    | 2学年                | 系列 | 人文科学・総合ビジネス | 教科・科目・単位数                                | 地理歴史・日本史B・4単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 詳説日本史B (山川出版社) |    | 副教材         | 最新日本史図表 初訂版(第一学習社)<br>要点整理ゼミナール日本史(浜島書店) |               |

1 科目の目標

日本の歴史について、政治・社会・産業・文化などさまざまな視点から学び、合わせて、世界との関わりの中から「世界の中での日本の在り方」を考える視点を身につける。また大学受験を希望する生徒も多いことから、大学入試に対応できる実力を養う。

2 学習について

|                 |  |
|-----------------|--|
| (1) 授業形態        | 教室での講義   |
| (2) 学習方法        | <p>① 予習・復習の方法</p> <p>予習：教科書をよく読み、該当部分の政治・社会等の流れを理解する。<br/>復習：ノート・資料集を読んで要点を押さえ、問題集等で理解度を確認する。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>教科書・資料集で該当箇所を確認しながら説明をよく聞く。板書事項を確実にノートにとり、必要に応じてメモを加える。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>さまざまなテーマにおける物事や人の考え方の流れを単純な線として捉えず、それぞれを横断的に結びつけながら理解する。</p> |
| (3) 担当者からのアドバイス | 歴史は他の教科・科目の学習と関連するだけでなく、現在起こっているさまざまな出来事と密接に結びついている。新聞やニュースを見たり聞いたりして、興味・関心を広げよう。  |

3 学習計画

|    |                | 単元名(学習項目)        | 学習内容(ねらい)  |
|----|----------------|------------------|--|
| 前期 | I期<br>中間       | 第1章 日本文化のあけぼの    | 日本文化・社会の黎明期について学び、社会の発達と国家形成期の様相、ならびに海外とのかかわりを理解する。                          |
|    |                | 第2章 律令国家の形成      | 律令国家の形成～王朝国家成立期について学び、古代日本国家の形成・発展と円熟した貴族社会の様相を詳しく考察する。                      |
|    | I期<br>期末       | 第3章 貴族政治と国風文化    | 古代末～中世初期について学び、土地支配制度や政治の変革、および産業の発達をとおして中世社会の形成について理解する。                    |
|    |                | 第4章 中世社会の成立      | 中世社会の確立期について学び、中世社会の実像や伝統文化の形成を理解し、あわせて当該期の対外関係を考察することにより、「アジアの中の日本」について考える。 |
|    | II期<br>中間      | 第5章 武家社会の成長      | 中世後期～近世初期について学び、統一政権の形成過程をとおして、中世から近世への転換について詳しく考察するとともに、成立期の近世社会について理解する。   |
|    |                | 第6章 幕藩体制の確立      | 日本近世社会の確立期をとおして、台頭する庶民層と新たな文化の形成、および産業・社会の発達などについて学ぶ。                        |
| 後期 | II期<br>期末      | 第7章 幕藩体制の展開      | 近世後期の政治改革や、円熟した庶民文化について学び、あわせて幕藩体制の動揺と社会の変容について理解する。                         |
|    |                | 第8章 幕藩体制の動揺      | 日本近代国家の成立過程をとおして、立憲国家成立までの流れや近代産業・文化の発展について学ぶ。また日清・日露戦争をとおして、当該期の国際情勢を考察する。  |
|    | 年次<br>末        | 第9章 近代国家の成立      | 第一次大戦以降、日本の敗戦までをとおして「世界の中の日本」の動きを、世界的な政治・経済の流れとあわせて詳しく学ぶ。                    |
|    |                | 第10章 二つの世界大戦とアジア | 大戦終結後の日本と世界について学び、敗戦後の日本社会の変革・復興、国際情勢の変化とあわせて、現代の世界と日本が抱える諸問題について理解する。       |
|    |                | 第11章 占領下の日本      |  |
|    |                | 第12章 高度成長の時代     |  |
|    | 第13章 激動する世界と日本 |                  |  |

4 観点別評価

計146時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能  | 知識・理解   |
|--|--|--|---|
| 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 | 我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 |

5 評価方法

|   |
|---|
| 上記の観点をふまえ、定期考査の成績に加え、適宜課される課題等の提出物及び授業態度等を総合的に判断する。 |
|---|

|       |             |    |             |           |   |
|-------|-------------|----|-------------|-----------|---|
| 学年    | 2学年         | 系列 | 人文科学・総合ビジネス | 教科・科目・単位数 | 地理歴史・地理B・4単位                                      |
| 使用教科書 | 新詳地理B(帝国書院) |    |             | 副教材       | 新詳高等地図(帝国書院)<br>最新地理図表GEO(第一学習社)<br>新地理要点ノート(啓隆社) |

## 1 科目の目標

1. 現代世界の地理的認識を深める。
2. 地理的な見方・考え方を養う。
3. 地図と地理情報を活用する技能を身に付ける。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

講義を中心に行うが、特に自然災害と関連させたグループワークを取り入れる。

## (2) 学習方法

## ① 授業における学習方法

系統地理と地誌の双方からのアプローチ 地域の特色や地域差を認識する。  
地図、図表、写真を利用した考察 分布や傾向の背景を多面的、多角的にとらえる。

## ② 家庭学習のポイント等

地図帳で地名を、資料集で事象を確認する。  
授業では時間がとれないので、各自問題演習を行う。

## (3) 担当者からのアドバイス

常に傍らに地図帳や資料集を置き、テレビやインターネットを閲覧したり、新聞や雑誌、旅行パンフなどを開いた際に、地名や地理的事象を確認するように。この地道な作業以外に能力アップする方法はありません。

## 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                       | 学習内容(ねらい)   |
|----|---------------------------------|---|
| 前期 | I 期中間<br>1. 地図と地理的技能<br>2. 自然環境 | (1)地理情報と地図の活用<br>(2)地形<br>(3)気候   |
|    | I 期期末<br>3. 資源と産業               | (1)農林水産業<br>(2)鉱工業  |
|    | II 期中間<br>4. 人口、村落・都市           | (1)人口<br>(2)村落と都市<br>(3)都市・居住問題   |
| 後期 | 期 II 末期<br>5. 生活と文化             | (1)民族と宗教<br>(2)民族・領土問題  |
|    | 年次末<br>6. 現代世界の諸地域              | (1)中国を中心とする東アジア世界<br>(2)インドを中心とする南アジア世界<br>(3)西アジア・中央アジアのイスラム世界等<br>(4)ヨーロッパ世界<br>(5)アメリカおよびオセアニア世界 |

## 4 観点別評価

計146時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。 | 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 地図や統計、画像などの地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けようとしている。 |

## 5 評価方法

上記観点を踏まえ、以下を参考に総合的に評価する。

1. 定期考查(年5回)
2. 提出物(白地図・レポート)
3. 授業態度(出欠状況・意欲・興味関心)

|       |                  |    |      |                    |               |
|-------|------------------|----|------|--------------------|---------------|
| 学年    | 2学年              | 系列 | 自然科学 | 教科・科目・単位数          | 地理歴史・日本史A・3単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 日本史A (山川出版社) |    | 副教材  | 最新日本史図表 初訂版(第一学習社) |               |

## 1 科目の目標

近現代の日本の歴史について、政治・社会・産業・文化などさまざまな視点から学び、合わせて、世界との関わりの中から「世界の中での日本の在り方」を考える視点を身につける。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

教室での講義

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

予習：教科書をよく読み、該当部分の政治・社会等の流れを理解する。

復習：ノート・資料集を読んで要点を押さえ、問題集等で理解度を確認する。

## ② 授業における学習方法

教科書・資料集で該当箇所を確認しながら説明をよく聞く。板書事項を確実にノートにとり、必要に応じてメモを加える。

## ③ 家庭学習のポイント等

さまざまなテーマにおける物事や人の考え方の流れを単純な線として捉えず、それぞれを横断的に結びつけながら理解する。

## (3) 担当者からのアドバイス

歴史は他の教科・科目の学習と関連するだけでなく、現在起こっているさまざまな出来事と密接に結びついている。新聞やニュースを見たり聞いたりして、興味・関心を広げよう。

## 3 学習計画

|    |        | 単元名(学習項目)                                     | 学習内容(ねらい)   |
|----|--------|---|---|
| 前期 | I 期中間  | 第1章 開国と明治維新                                   | ペリー来航に始まる幕末期の大変動を幕藩体制の崩壊期としてとらえ、また、その後の明治維新、近代日本の建設について学ぶ。                                  |
|    | I 期末   | 第2章 立憲国家の成立<br>自由民権運動～立憲政治の展開                 | 政府の強力な中央集権体制志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る、近代国家の基盤が形成されていく過程について学ぶ。                            |
|    | II 期中間 | 第2章 立憲国家の成立<br>日清・日露戦争～産業革命<br>第3章 第一次世界大戦と日本 | 不平等条約の改正を実現し、日清・日露の両戦争を通じて日本が東アジアに進出した経過について整理する。また、第一次世界大戦・ロシア革命という世界史的激動に日本がどう対処したかを理解する。 |
| 後期 | II 期末  | 第4章 昭和の恐慌と満州事変<br>第5章 第二次世界大戦と日本              | 第一次世界大戦以降、日本の敗戦までをとおして「世界の中の日本」の動きを、世界的な政治・経済の流れとあわせて詳しく学ぶ。                                 |
|    | 年次末    | 第6章 占領下の日本<br>第7章 経済繁栄と保守長期政権<br>第8章 現代の世界と日本 | 大戦終結後の日本と世界について学び、敗戦後の日本社会の変革・復興、国際情勢の変化とあわせて、現代の世界と日本が抱える諸問題について理解する。                      |

## 4 観点別評価

計110時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 技能   | 知識・理解   |
|--|--|--|---|
| 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 | 我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査の成績に加え、適宜課される課題等の提出物及び授業態度等を総合的に判断する。

|       |                |    |      |           |  |
|-------|----------------|----|------|-----------|--|
| 学年    | 2学年            | 系列 | 自然科学 | 教科・科目・単位数 | 地理歴史・地理A・3単位                                       |
| 使用教科書 | 高等学校新地理A(帝国書院) |    |      | 副教材       | 新詳高等地図帳(帝国書院)<br>最新地理図表GEO(第一学習社)<br>新地理要点ノート(啓隆社) |

1 科目の目標

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 現代世界の地理的認識を深める。       | 2. 地理的な見方・考え方を養う。 |
| 3. 地図と地理情報を活用する技能を身に付ける。 |                   |

2 学習について

|                 |   |
|-----------------|---|
| (1) 授業形態        | 講義を中心に行うが、特に自然災害と関連させたグループワークを取り入れる。  |
| (2) 学習方法        | <p>① 授業における学習方法</p> 系統地理と地誌の双方からのアプローチー地域の特色や地域差を認識する。<br>地図、図表、写真を利用した考察ー分布や傾向の背景を多面的、多角的にとらえる。  |
|                 | <p>② 家庭学習のポイント等</p> 地図帳で地名を、資料集で事象を確認する。<br>授業では時間がとれないので、各自問題演習を行う。                              |
| (3) 担当者からのアドバイス | 常に傍らに地図帳や資料集を置き、テレビやインターネットを閲覧したり、新聞や雑誌、旅行パンフなどを開いた際に、地名や地理的事象を確認するように。この地道な作業以外に能力アップする方法はありません。 |

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)         | 学習内容(ねらい)   |
|----|-------------------|---|
| 前期 | I 期中間<br>1 自然環境   | (1)地球規模でとらえる現代社会<br>(2)地形<br>(3)気候  |
|    | I 期末<br>2 資源と産業   | (1)農牧業<br>(2)鉱工業  |
|    | II 期中間<br>3 生活と文化 | (1)衣・食・住<br>(2)消費と余暇活動<br>(3)村落と都市  |
| 後期 | II 期末<br>4 地球的な課題 | (1)人口・食料問題<br>(2)民族・領土問題  |
|    | 年次末<br>5 世界の諸地域   | (1)中国を中心とする東アジア世界<br>(2)インドを中心とする南アジア世界<br>(3)西アジア・中央アジアのイスラム世界等<br>(4)ヨーロッパ世界<br>(5)アメリカおよびオセアニア世界 |

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。 | 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 地図や統計、画像などの地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けようとしている。 |

5 評価方法

|                          |                  |                       |
|--------------------------|------------------|-----------------------|
| 上記観点を踏まえ、以下を参考に総合的に評価する。 |                  |                       |
| 1. 定期考査(年5回)             | 2. 提出物(白地図・レポート) | 3. 授業態度(出欠状況・意欲・興味関心) |

|       |                  |    |           |                       |            |
|-------|------------------|----|-----------|-----------------------|------------|
| 学年    | 2学年              | 系列 | 人文科学・自然科学 | 教科・科目・単位数             | 数学・数学Ⅱ・4単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 新編 数学Ⅱ(数研出版) |    | 副教材       | 改訂版 3TRIAL数学Ⅱ+B(数研出版) |            |

1 科目の目標

社会現象や自然現象の解明に欠かせない関数とそのグラフの分析のための考え方や方法を身につけ、数学の有用性や楽しさを味わう。

2 学習について

|                 |  |
|-----------------|--|
| (1) 授業形態        | 2クラス 2展開または 2クラス 3展開の習熟度別学習をおこなう。  |
| (2) 学習方法        | <p>① 予習・復習の方法</p> <p>予習では、教科書から、技術的な計算力より、何を学ぶかという内容をおおまかにつかむ。</p> <p>復習では、学んだ内容と計算力を、問題集を解くことにより確実にする。</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>予習でつかった内容の確認と、それを具体的に実現する計算力を学ぶ。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>数学では復習がもっとも大切なので、習ったその日に副教材などで問題演習を行う。</p> <p>週末に課題プリントを配布するので、それを通して1週間の復習を行う。</p> |
| (3) 担当者からのアドバイス | <p>予習では、難しそうな箇所を確認しておき、授業で効率よく学習できるようにしておく。</p> <p>週末に、その週に行った内容の課題を出すので、しっかりやって提出する。</p>  |

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                               | 学習内容(ねらい)                                      |
|----|---|--|
| 前期 | I<br>期中<br>第1章 式と証明                     | ・等式・不等式の証明方法を理解する。                             |
|    | I<br>期末<br>第2章 複素数と方程式                  | ・虚数の意味を理解し、複素数の四則演算などができるようになる。                |
|    | II<br>期中<br>第3章 図形と方程式                  | ・円の方程式、軌跡や領域などについて理解する。                        |
| 後期 | II<br>期末<br>第4章 三角関数                    | ・弧度法を理解し、加法定理などが使えるようにする。                      |
|    | 年<br>次末<br>第5章 指数関数と対数関数<br>第6章 微分法と積分法 | ・累乗根の計算や分数指数について理解する。<br>・関数の極大・極小、定積分などを理解する。 |

4 観点別評価

計 146 時間 (48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 数学的な見方や考え方  | 数学的な技能   | 知識・理解   |
|--|---|--|---|
| いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 |

5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

|       |                  |    |           |           |                        |
|-------|------------------|----|-----------|-----------|------------------------|
| 学年    | 2学年              | 系列 | 人文科学・自然科学 | 教科・科目・単位数 | 数学・数学B・2単位             |
| 使用教科書 | 改訂版 新編 数学B(数研出版) |    |           | 副教材       | 改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ+B(数研出版) |

## 1 科目の目標

社会現象や自然現象の解明に欠かせない関数とそのグラフの分析のための考え方や方法を身につけ、数学の有用性や楽しさを味わう。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

2クラス 2展開または 2クラス 3展開の習熟度別学習をおこなう。

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

予習では、教科書から、技術的な計算力より、何を学ぶかという内容をおおまかにつかむ。

復習では、学んだ内容と計算力を、問題集を解くことにより確実にする。

## ② 授業における学習方法

予習でつかんだ内容の確認と、それを具体的に実現する計算力を学ぶ。

## ③ 家庭学習のポイント等

数学では復習がもっとも大切なので、習ったその日に副教材などで問題演習を行う。

週末に課題プリントを配布するので、それを通して1週間の復習を行う。

## (3) 担当者からのアドバイス

予習では、難しそうな箇所を確認しておき、授業で効率よく学習できるようにしておく。

週末に、その週に行った内容の課題を出すので、しっかりやって提出する。

## 3 学習計画

| 考査 | 単元名(学習項目)              | 学習内容(ねらい)                      |
|----|------------------------|--------------------------------|
| 前期 | 第1章 平面上のベクトル           | ・位置ベクトルを用いて平面図形の性質などを調べる。      |
| 後期 | Ⅱ<br>期末<br>第2章 空間のベクトル | ・空間における位置ベクトルを理解し、空間図形の性質を調べる。 |
|    | 年<br>次<br>末<br>第3章 数列  | ・記号 $\Sigma$ の意味、性質、公式を理解する。   |

## 4 観点別評価

計 110 時間 (48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 数学的な見方や考え方  | 数学的な技能   | 知識・理解   |
|--|---|--|---|
| いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に興味をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 |

## 5 評価方法

以上の観点をふまえ、定期テスト・課題テスト・課題の提出、小テスト、授業態度等を考慮して評価します。

|       |                   |    |      |           |                           |
|-------|-------------------|----|------|-----------|---------------------------|
| 学年    | 2学年               | 系列 | 人文科学 | 教科・科目・単位数 | 理科・物理基礎・2単位               |
| 使用教科書 | 改訂版 新編 物理基礎(数研出版) |    |      | 副教材       | 三訂版 リードLightノート物理基礎(数研出版) |

1 科目の目標

物理的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然の現象に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てると共に、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義、各単元で基本的な演示実験などを行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。事前に、教科書の例題を解いておくことが、理解するうえで望ましい

② 授業における学習方法

授業に真剣に参加すること。

③ 家庭学習のポイント等

課題研究でわからないこと、調べたい事があったとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

物理基礎は計算的思考が大切なので、しっかりと予習や復習することが理解への近道となる。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                              | 学習内容(ねらい)   |
|----|--|---|
| 前期 | I 期中間<br>運動とエネルギー<br>(運動と表し方)          | 速度・加速度など基本的な物理量や有効数字について学習し、等速度・等加速度運動など物体の運動についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。  |
|    | I 期末<br>運動エネルギー<br>(運動の法則、仕事と力学的エネルギー) | 力・運動の法則・様々なエネルギーについて学習し、エネルギー保存について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。                 |
|    | II 期中間<br>熱<br>(熱とエネルギー)               | 熱について学習し、物体の温度や熱量保存の法則や熱と仕事、そしてエネルギーについて理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。            |
| 後期 | II 期末<br>波<br>(波の性質、音)                 | 波の性質について学習し、波の様々な現象や波の一種である音の現象について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。                 |
|    | 年次末<br>電気<br>(物質と抵抗、交流と電磁波)            | 生活に欠かせない電気の基礎である電気の性質、オームの法則、電気抵抗、交流の性質を学習し、電気についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。 |

4 観点別評価計

73時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 観察・実験の技能   | 知識・理解  |
|---|--|--|--|
| 物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 | 物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。 | 物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・検証を科学的に探究する技能を身につけている。 | 物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

|       |                   |    |             |                      |             |
|-------|-------------------|----|-------------|----------------------|-------------|
| 学年    | 2学年               | 系列 | 人文科学・総合ビジネス | 教科・科目・単位数            | 理科・地学基礎・2単位 |
| 使用教科書 | 改訂高等学校地学基礎(第一学習社) |    | 副教材         | 改訂ネオパルノート地学基礎(第一学習社) |             |

1 科目の目標

地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。事前に、教科書を読んでおくことが、理解するうえで望ましい。

② 授業における学習方法

習ったことをノートにまとめる。黒板を写すだけでなく、理解するように各自で工夫する。

③ 家庭学習のポイント等

わからないこと、調べたい事があつたとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。  
日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

結果だけでなく、その結果にいたるプロセスが大切です。重要事項だけ丸暗記することのないようにしましょう。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                                     | 学習内容(ねらい)   |
|----|---|---|
| 前期 | I 期中間<br>宇宙における地球<br>(宇宙の構成・太陽・太陽系の中の地球)      | 宇宙の誕生と地球の形成について学習し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。                     |
|    | I 期末<br>活動する地球<br>(地球の姿・火山活動と地震)              | プレートの分布と運動および運動にともなう大地の形成を理解する。火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。      |
|    | II 期中間<br>移り変わる地球<br>(地層や岩石と地質構造・地球環境と生物界の変遷) | 地層が形成されるしくみと地質構造についてわかりかいる。古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。          |
| 後期 | II 期末<br>大気と海洋<br>(地球の熱収支・大気と海洋の運動)           | 大気の構造と地球全体の熱収支について理解する。大気の大循環と海水の運動およびそれらによる熱の輸送について理解する。   |
|    | 年次末<br>地球の環境<br>(地球環境の科学・日本の自然環境)             | 地球の環境の変化を科学的に考察する。日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活との関わりを理解する。 |

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能  | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中でとらえるなど、科学的な見方や考え方を身につけている。 | 地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、自称を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 | 地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

|       |               |    |      |           |                      |
|-------|---------------|----|------|-----------|----------------------|
| 学年    | 2学年           | 系列 | 自然科学 | 教科・科目・単位数 | 理科・物理基礎・3単位          |
| 使用教科書 | 改訂 物理基礎(東京書籍) |    |      | 副教材       | 改訂 ニューアチーブ物理基礎(東京書籍) |

1 科目の目標

物理的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然の現象に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てると共に、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 学習について

|                 |  |
|-----------------|--|
| (1) 授業形態        | 主に教室での講義、各単元で基本的な演示実験などを行う。  |
| (2) 学習方法        | <p>① 予習・復習の方法</p> <p>授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。事前に、教科書の例題を解いておくことが、理解するうえで望ましい</p> <p>② 授業における学習方法</p> <p>授業に真剣に参加すること。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等</p> <p>課題研究でわからないこと、調べたい事があったとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。</p> |
| (3) 担当者からのアドバイス | 物理基礎は計算的思考が大切なので、しっかりと予習や復習することが理解への近道となる。   |

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                              | 学習内容(ねらい)   |
|----|--|---|
| 前期 | I 期中間<br>運動とエネルギー<br>(運動と表し方)          | 速度・加速度など基本的な物理量や有効数字について学習し、等速度・等加速度運動など物体の運動についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。  |
|    | I 期末<br>運動エネルギー<br>(運動の法則、仕事と力学的エネルギー) | 力・運動の法則・様々なエネルギーについて学習し、エネルギー保存について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。                 |
|    | II 期中間<br>熱<br>(熱とエネルギー)               | 熱について学習し、物体の温度や熱量保存の法則や熱と仕事、そしてエネルギーについて理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。            |
| 後期 | II 期末<br>波<br>(波の性質、音)                 | 波の性質について学習し、波の様々な現象や波の一種である音の現象について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。                 |
|    | 年次末<br>電気<br>(物質と抵抗、交流と電磁波)            | 生活に欠かせない電気の基礎である電気の性質、オームの法則、電気抵抗、交流の性質を学習し、電気についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。 |

4 観点別評価

計110時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 観察・実験の技能   | 知識・理解  |
|---|--|--|--|
| 物理的な事物・現象に関心や探求心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 | 物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。 | 物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・検証を科学的に探究する技能を身につけている。 | 物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

|       |             |    |      |           |                                     |
|-------|-------------|----|------|-----------|-------------------------------------|
| 学年    | 2学年         | 系列 | 自然科学 | 教科・科目・単位数 | 理科・化学・4単位                           |
| 使用教科書 | 新編 化学(東京書籍) |    |      | 副教材       | 2018セミナー化学基礎+化学<br>三訂版 フォトサイエンス化学図録 |

## 1 科目の目標

1年次の「化学基礎」の知識を基礎として、基本的な概念や原理・法則を理解を深める。さらなる化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、科学的な自然観・思考力・表現力を育成する。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

主に教室での講義と演習、進度に合わせて化学実験室において実験を行う。

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

[予習]教科書に目を通し、今までに学習した内容を確認し、疑問点について整理しておく。

[復習]問題を解き、授業で学習した事項の重点を再確認する。

## ② 授業における学習方法

板書事項をただ書き写すのではなく、説明の重要点をしっかりとメモする。

積極的に問題を解く。

わからない箇所や疑問な点は積極的に質問する。

## ③ 家庭学習のポイント等

現象を視覚的にイメージして理解する。

学んだことを問題集を使って演習する。

## (3) 担当者からのアドバイス

知識の定着をはかるために家庭では復習をする時間を確保し問題を繰り返し練習すること。

分からない箇所や疑問点はそのままにせず、積極的に質問をすること。

## 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                              | 学習内容(ねらい)   |
|----|--|---|
| 前期 | I 期中間<br>物質の状態と変化<br>溶液の性質             | 状態変化を学習し気体の性質を理解する。<br>希薄溶液の性質やコロイドについて理解する。                                    |
|    | I 期末<br>固体の構造<br>化学反応と熱・光<br>電池と電気分解   | 化学結合と各結晶の原子の配列を理解する。<br>化学反応に伴う熱・光エネルギーの出入りについて学ぶ。<br>酸化還元反応を理解し、電池と電気分解について学ぶ。 |
|    | II 期中間<br>化学反応の速さ<br>化学平衡<br>電解質水溶液の平衡 | 反応速度を変える条件を理解する。<br>平衡移動の原理について学習する。<br>電離平衡を理解し、水溶液のpHについて学習する。                |
| 後期 | II 期末<br>無機物質                          | 非金属元素、典型金属元素、遷移元素について学習する。<br>生活に関わる無機物質について学習する。                               |
|    | 年次末<br>有機化合物<br>高分子化合物                 | 有機化合物について学習する。<br>生活に関わる高分子化合物について学習する。   |

## 4 観点別評価

計146時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能  | 知識・理解                                    |
|---|---|---|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、小テスト、実験レポート、課題、授業に対する意欲・態度、出席状況から総合的に評価する。

|       |                |    |      |           |   |
|-------|----------------|----|------|-----------|---|
| 学年    | 2学年            | 系列 | 自然科学 | 教科・科目・単位数 | 理科・生物・4単位   |
| 使用教科書 | スタンダード生物(東京書籍) |    |      | 副教材       | 改訂Let'sTryNote生物 Vol.1,2(東京書籍)<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |

### 1 科目の目標

生物や生命現象に対する探求心を高め、生物学的に探究する能力と態度を身につける。  
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め科学的な自然観を身につける。

### 2 学習について

#### (1) 授業形態

主に教室での講義、単元によって生物実験室での実験を行う。

#### (2) 学習方法

##### ① 予習・復習の方法

授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。

事前に、教科書を読んでおくことが、理解するうえで望ましい。

##### ② 授業における学習方法

学習したことをノートにまとめる。ただ黒板を写すのではなく、理解するよう自分で工夫する。

##### ③ 家庭学習のポイント等

課題研究でわからないこと、調べたい事があつたとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。

日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

#### (3) 担当者からのアドバイス

生物基礎に比べ非常に高度な内容をたくさん学習するため、しっかりと家庭学習することが理解への近道である。

### 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)  |
|----|---|--|
| 前期 | I 期中間<br>生命現象と物質<br>(生体物質と細胞・生命現象を支えるタンパク質・代謝とエネルギー)      | 細胞の内部構造やタンパク質、呼吸や光合成のしくみを学習し、様々な物質が生命現象を支えていることを理解する。                    |
|    | I 期期末<br>遺伝子の働き<br>(DNAの構造と複製・遺伝情報の発現・遺伝子の発現調節・バイオテクノロジー) | DNAの複製や遺伝子の発現、遺伝子を扱う技術技術について学び、遺伝のしくみを理解するとともにその原理と人間社会に対する影響について考えを深める。 |
|    | II 期中<br>生殖と発生(多様な個体が生じる有性生殖・動物の発生・動物の発生のしくみ)             | 生物の生殖や発生について学習し、動物の配偶子形成から形態形成までのしくみを理解する。                               |
| 後期 | II 期期末<br>生殖と発生(植物の発生)<br>生物の環境応答(動物の刺激の需要と反応)            | 環境の変化に生物がどのように反応しているかを学習し、生物が外界の変化を感知し、それに反応するしくみを理解する。                  |
|    | 学年末<br>生物の環境応答(動物の刺激の受容と反応・動物の行動・植物の環境応答)                 | 眼や耳などの受容器のしくみや、動物の行動の例から生物に関する理解を深める。                                    |

### 4 観点別評価

計146時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 観察・実験の技能   | 知識・理解                                    |
|--|--|--|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を見通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

### 5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、実験レポート、課題レポート、小テスト、授業への意欲等、総合的に判断する。

|       |                 |    |     |           |             |
|-------|-----------------|----|-----|-----------|-------------|
| 学年    | 2学年             | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数 | 保健体育・体育・2単位 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館書店） |    |     | 副教材       |             |

1 科目の目標

心と体を一体として捉え、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。  
 健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態

一斉展開授業及び種目選択授業

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

なし

② 授業における学習方法

自己の健康管理に注意し、怪我防止対策を万全にする。 指定の体育着、シューズを着用すること。  
 貴重品の管理を行うこと。

③ 家庭学習のポイント等

特になし

(3) 担当者からのアドバイス

健康・安全や運動について理解し、運動を合理的に実践する能力を身に付けてほしい。  
 また、生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付けてほしい。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)  | 学習内容(ねらい)  |
|----|--|--|
| 前期 | 4<br>オリエンテーション(1)<br>体づくり(3) (4)   | 年間計画の把握<br>体ほぐし運動                                |
|    | 5<br>陸上競技(16)<br>6<br>体育理論(2) (18)                                       | 短距離走・走幅跳・円盤投/種目別に基礎技術の応用<br>体ほぐしの意義と体力の高め方       |
|    | 7<br>8<br>9<br>屋外型球技種目選択(14)<br>(ソフトボール/サッカー/テニス) (14)                   | 種目別に基礎技術の応用                                      |
| 後期 | 10<br>陸上競技(6) (6)  | 持久走(2000m/1200m)                                 |
|    | 11<br>体育理論(2)<br>12<br>球技種目選択(10)<br>フットサル/バスケットボール/卓球<br>体づくり運動(6) (18) | 現代体育について調べ学習<br>種目別に基礎技術の応用・応用練習と試合<br>体ほぐし運動の応用 |
|    | 1<br>2<br>3<br>屋内型球技種目選択(11)<br>(バスケットボール/バレーボール/バドミントン)<br>体育理論(2) (13) | ルールを学ぶ・種目別に基礎練習とゲームを行う<br>運動技能の構造と運動の学び方         |

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断  | 運動の技能  | 知識・理解  |
|---|--|--|--|
| 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 |

5 評価方法

上記の観点を踏まえ実技試験に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

|       |                 |    |     |           |                    |
|-------|-----------------|----|-----|-----------|--------------------|
| 学年    | 2学年             | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数 | 保健体育・保健・1単位        |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育(大修館書店) |    |     | 副教材       | 現代高等保健体育ノート(大修館書店) |

## 1 科目の目標

健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について問題解決に役立つ基本的な事項についての知識を身に付ける。また、生涯を通じて自らの健康を管理し、保持増進を図るために適切な生活行動を選択し実践する能力と資質を育てる。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

クラス一斉授業及びグループ学習

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

日ごろから自分を取り巻く環境や、社会における健康問題に目を向けておくこと。

## ② 授業における学習方法

一斉指導及び、グループによる課題解決学習等

## ③ 家庭学習のポイント等

健康の保持増進を図るために、新聞記事やインターネットなどの最新情報を積極的に活用する。

## (3) 担当者からのアドバイス

個人生活や社会生活における健康・安全について関心を持ち、課題の解決に向けて、意欲的に取り組んでほしい。また、生涯を通じて心身の健康を保持増進していくための適切な生活行動の選択と実践を身に付けてほしい。

## 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)  | 学習内容(ねらい)  |
|----|--|--|
| 前期 | I 期中間<br>思春期と健康(2)<br>性意識と性行動の選択(1)<br>結婚生活と健康(1)<br>妊娠・出産と健康(2)<br>家族計画と人工妊娠中絶(2)<br>(8)                            | 思春期の特徴について体と心の面から理解する<br>性意識に関する男女の特性を理解する<br>心身の発達には本人家族の健康が大きく影響することを理解する<br>受精妊娠出産の一連の過程を理解する<br>家族計画の意義や方法について理解する         |
|    | I 期末<br>加齢と健康(2)<br>高齢者のための社会的取り組み(1)<br>保健制度とその活用(2)<br>定期考査(1)<br>(6)  | 加齢に伴う心身の変化を形態面と機能面から理解する<br>保健医療福祉の連携が重要になっていることを理解する<br>保健制度を自分にかかわるものと理解し、生かし方を学ぶ  |
|    | II 中間<br>医療制度とその活用(1)<br>医薬品と健康(2)<br>さまざまな保健活動や対策(1)<br>(4)   | 医療機関の活動内容を理解し、医療費の仕組みも理解する<br>医薬品の正しい使い方や様々な仕組みを理解する<br>どのような保健活動や対策が行われていることを理解する   |
| 後期 | II 末期<br>大気汚染と健康(2)<br>水質汚濁・土壌汚染と健康(2)<br>健康被害の防止と環境対策(2)<br>環境衛生活動のしくみと働き(2)<br>食品衛生活動のしくみと働き(1)<br>定期考査(1)<br>(10) | 汚染源と汚染物質、それによる健康被害について理解する<br>水質汚濁の実態と対策を理解する<br>健康被害の防止と環境対策を理解する<br>ごみ処理と上下水道の整備の現状の仕組みと働きを理解する<br>食品の安全を守るために、各々での役割について考える |
|    | 年次末<br>食品と環境の保健と私たち(2)<br>働くことと健康(2)<br>労働災害と健康(2)<br>健康的な職業生活(2)<br>定期考査(1)<br>(9)                                  | 安全な食品を確保し環境を汚染しないための取り組みを考える<br>働くことの意義や働き方の変化を理解する<br>労働災害、職業病とは何かを理解する<br>健康的な職業生活を送るために必要な取り組みを理解する                         |

## 4 観点別評価

計37時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 知識・理解  |
|--|--|--|
| 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を保ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査の成績に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

|       |   |    |     |  |                     |
|-------|---|----|-----|--|---------------------|
| 学年    | 2学年   | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数  | 英語・コミュニケーション英語Ⅱ・4単位 |
| 使用教科書 | Perspective English Communication II<br>(第一学習社) |    | 副教材 | Perspective English Communication II WORKBOOK<br>Word Navi 英単語・熟語3000(啓林館) |                     |

## 1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

習熟度別授業。導入、指示、内容理解の部分で英語を使った授業を行う。

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法(家庭学習のポイント)

予習 ・ 授業の内容は事前に目を通し、新出語、重要表現等は辞書や文法書で調べ、学習をしておく。また、わからない箇所は明確にしておきましょう。

## ② 授業における学習方法

授業を積極的に受けるには、予習が必須です。予習をすることで、授業が理解でき、分からないところに気づくこともできます。予習や授業での疑問点は調べたり、質問したりし、そのままにしておくことがないようにしましょう。

## (3) 担当者からのアドバイス

英語は根気強く、継続し、学習しなければならない教科です。毎日、少しずつコツコツと予習・復習をしましょう。辞書を引いた回数分、単語を練習した回数分、音読した回数分、理解できるようになり、楽しさもわかってきます。

## 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)  | 学習内容(ねらい)  |
|----|--|--|
| 前期 | I 期中間<br>Lesson 1 A Hunger for Knowledge<br>Lesson 2 Strike a Chord for Health                 | 条件を表す仮定法、同格のthatの確認と理解<br>未来完了形、完了動名詞の確認と理解            |
|    | I 期末末<br>Lesson 3 Eating Up the Sea<br>Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World<br>Peace         | Be to-不定詞、前置詞＋関係代名詞の確認と理解<br>動名詞の意味上の主語、動名詞(受動態)の確認と理解 |
|    | II 期中<br>Lesson 5 Amazing Tool Users<br>Lesson 6 Haiti's Mother Teresa                         | 仮定法を含む表現、否定語＋倒置の確認と理解<br>独立分詞構文、複合関係詞の確認と理解            |
| 後期 | II 期末末<br>Lesson 7 Machu Picchu - City in the Clouds<br>Lesson 8 The Little Rock Nine          | 完了形の分詞構文、主語が条件を表す仮定法の確認と理解<br>With＋名詞＋分詞など、仮定法現在の確認と理解 |
|    | 年次末<br>Lesson 9 A Mission beyond Our Imagination<br>Lesson10 Is "Goblish" a New Lingua Franca? | 進行形(受動態)、完了不定詞の確認と理解<br>未来進行形、名詞や形容詞で始まる分詞構文の確認と理解     |

## 4 観点別評価

計140時間(50分授業)

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度                           | 外国語表現の能力                        | 外国語理解の能力                         | 言語や文化についての知識・理解   |
|---|---------------------------------|----------------------------------|---|
| コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 | 英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 | 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 | 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考查70～80%、その他(課題テスト、単語テスト、週末課題、提出物など)20～30%を合計し総合的に評価する。

| 学年    | 2学年                               | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数   | 外国語・英語表現Ⅱ・2単位 |
|-------|-----------------------------------|----|-----|---|---------------|
| 使用教科書 | be English Expression II (いいずな書店) |    | 副教材 | ・be English Expression II Workbook (いいずな書店)<br>・総合英語 be New Edition (いいずな書店)<br>・Core Lex 英和辞典(旺文社) |               |

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

習熟度別授業。あいさつや導入、指示、内容理解の部分で英語を使った授業を行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法(家庭学習のポイント)

予習 教科書を読み、各レッスンのExerciseを解答し、わからない箇所を明確にし、文法書で確認する。  
 復習 各レッスンのGrammar and Expressionsを復習し、再度Exercisesの問題を解き、Workbookにも取り組む。

② 授業における学習方法

学んだことを定着させるため、予習・復習は必ず行うこと。学んだ内容を使い文を作ることを目指す。文法事項は授業中に理解するように取り組むこと。調べても分からないことは質問をする。

(3) 担当者からのアドバイス

- ・予習や復習をしないか、授業に対する気持ちが大きくなります。やる気を保つためにも必ず予習、復習を行いましょう。
- ・英語を使って考えを述べるためには、基本的な英語力と、積極的に相手とコミュニケーションを取ろうとする態度が必要です。そのために繰り返し文法の基本事項を練習し、暗記し、使って表現してみるよう心がけましょう。

3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)  |
|----|---|--|
| 前期 | I 期中間<br>Lesson 1 時の表し方<br>Lesson 2 動詞と文の構造<br>Lesson 3 助動詞<br>Lesson 4 名詞と限定詞  | Grammar: 現在、過去、未来、「過去のある時点まで」の理解<br>Activity: 夢・将来<br>Grammar: 自動詞、他動詞、受動態、動詞の後続要素、群動詞の理解<br>Activity: 文化・行事<br>Grammar: 助動詞、助動詞+have+過去分詞の理解<br>Activity: ペット<br>Grammar: 加算名詞、不可算名詞、冠詞と名詞、数と量の理解<br>Activity: 情報と社会                              |
|    | I 期末<br>Lesson 5 代名詞<br>Lesson 6 名詞句と名詞節<br>Lesson 7 形容詞<br>Lesson 8 形容詞句   | Grammar: 人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞の理解<br>Activity: 世界の国々<br>Grammar: 不定詞、動名詞、名詞節の理解<br>Activity: 外国での生活<br>Grammar: 形容詞、分詞の限定用法、叙述用法、感情を表す分詞<br>Activity: 利便性<br>Grammar: 名詞+形容詞、名詞+分詞句、名詞+不定詞句、形容詞構文<br>Activity: 幸福                                      |
|    | II 期中間<br>Lesson 9 形容詞節<br>Lesson 10 副詞<br>Lesson 11 副詞句<br>Lesson 12 副詞節   | Grammar: 関係代名詞、関係副詞<br>Activity: 活動<br>Grammar: 副詞<br>Activity: 社会的習慣<br>Grammar: 不定詞、分詞、前置詞句<br>Activity: 思い出<br>Grammar: 副詞節、前置詞句<br>Activity: 電子機器  |
| 後期 | II 期末<br>Lesson 13 比較<br>Lesson 14 仮定法<br>Lesson 15 複文での動詞の使い方<br>Lesson 16 「言う」、「見る」、「聞く」の表現                                   | Grammar: 比較<br>Activity: 進路<br>Grammar: 仮定法過去、仮定法過去完了<br>Activity: 想像<br>Grammar: 要求や必要を表す表現、時制の一致、語法、時を表す表現<br>Activity: 教訓<br>Grammar: say/tell/知覚動詞、伝聞の表現<br>Activity: コミュニケーション  |
|    | 年次末<br>Lesson 17 認識の表現<br>Lesson 18 許可、提案、依頼、勧誘、要望の表現<br>Lesson 19 存在や変化の表現<br>Lesson 20 「させる」、「される」の表現<br>Lesson 21 日本語と違う表現方法 | Grammar: think/realize/seem/sure<br>Activity: 社会問題<br>Grammar: 許可、提案、依頼、勧誘、要望の表現<br>Activity: 生活と住居<br>Grammar: ある、いる、なる、するようになる等の表現<br>Activity: 旅行<br>Grammar: 不定詞、分詞、受動態を使った表現<br>Activity: 健康<br>Grammar: 主語の表し方、名詞を中心にする表現<br>Activity: 興味・関心 |

4 観点別評価

計73時間(48分授業)

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度  | 外国語表現の能力   | 外国語理解の能力   | 言語や文化についての知識・理解                                    |
|--|--|--|--|
| コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、他者とのコミュニケーションを図ろうと努力している。 | さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなど、相手に伝えようとする内容を、英語で話したり書いたりして、適切に表現している。 | 表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについて、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解している。 | 英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深めている。 |

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査70～80%、その他(課題テスト、小テスト、課題提出、授業中の発表など)20～30%を合計し、総合的に評価する。

|       |             |    |     |           |  |
|-------|-------------|----|-----|-----------|--|
| 学年    | 2学年         | 系列 | 全系列 | 教科・科目・単位数 | 家庭・家庭基礎・2単位  |
| 使用教科書 | 家庭基礎 (東京書籍) |    |     | 副教材       | ビジュアルクッキング(教育図書)<br>生活ハンドブック(第一学習社)<br>学習ワーク(東京書籍) |

## 1 科目の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

クラス一斉授業

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

衣食住や福祉、消費生活に関する情報収集をする。実習内容を家庭でも実践する。

## ② 授業における学習方法

家族のよりよい生活や、将来の自分の生活のためにできることについて考えながら意欲的に取り組む。

## ③ 家庭学習のポイント等

新聞や書籍などを読む。

## (3) 担当者からのアドバイス

自分や家族の生活について、日頃から興味・関心を持つようにする。

## 3 学習計画

| 考査 | 単元名(学習項目)  | 学習内容(ねらい)   |
|----|--|---|
| 前期 | I 期中間<br>ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動<br>子どもとかかわる<br>衣生活をつくる    | ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解する<br>親になることを考える。健やかに育つ環境<br>(自分の幼少期について家族にインタビューする)<br>衣生活の管理(家庭で使用している洗剤調査)<br>衣生活と資源・環境 |
|    | 期 I 末期<br>I 期末考査                                       | 三角巾製作   |
| 後期 | II 期中間<br>食生活をつくる                                      | 私たちの食生活<br>栄養と食品のかかわり<br>食品の選び方と安全(食品表示調査)<br>調理実習  |
|    | 期 II 末期<br>高齢者と関わる<br>II 期末考査                          | 高齢者疑似体験<br>(一人暮らしの高齢者へ手紙を書く)  |
|    | 年次末<br>消費者として自立する<br>住生活をつくる<br>自分らしい生き方と家族<br>生活を設計する | 社会の変化と消費生活<br>住居と住環境<br>自分自身について客観的に知り、結婚・家族・家庭に関する課題について学習し、将来について考え、ライフコースの計画と生活設計をする                             |

※備考:( )内はホームプロジェクトまたは学校家庭クラブ活動の内容である。この他にも各分野に関連付けたホームプロジェクトを行う。

## 4 観点別評価

計73時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 技能   | 知識・理解   |
|--|--|--|---|
| 人の一生、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を見だし、その解決を目指して思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。またそれを的確に表現している。 | 自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 | 自分や家族・家庭地域社会の役割を理解し、生活の充実向上にむけて必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、各考査成績、提出物、授業態度などを総合して評価する。

|       |                 |    |        |           |   |
|-------|-----------------|----|--------|-----------|---|
| 学年    | 2学年             | 系列 | 総合ビジネス | 教科・科目・単位数 | 商業・簿記・4単位                                     |
| 使用教科書 | 高校簿記 新訂版 (実教出版) |    |        | 副教材       | 簿記検定問題集最新段階式 2級<br>簿記実務検定 模擬試験問題集2級<br>(実教出版) |

## 1 科目の目標

- ・企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得する。
- ・簿記の基本的な仕組みについて理解し、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につける。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

一斉授業

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

科目の特性上、予習の必要はないが、その分復習に十分な時間をかける必要がある。

## ② 授業における学習方法

簿記の学習は、記帳技術を身につけることが重要である。記帳手順1つ1つに意味があるため、授業での説明を聞き、その意味および手順を理解するように努力すること。

## ③ 家庭学習のポイント等

授業で学習した記帳問題を再度記帳すること。

簿記は記帳手順が重要であるため、その日に学習した記帳手順を必ず確認し身につけること。

## (3) 担当者からのアドバイス

ほぼ毎日授業があり、どんどん進んでいくので休まないこと。

学習した記帳問題を繰り返し記帳し、記帳時間の短縮、記帳技術の向上に努めることが重要である。

## 3 学習計画

| 考査 | 単元名(学習項目)   | 学習内容(ねらい)  |
|----|---|--|
| 前期 | I 期中間<br>第1編 簿記の基礎                                    | 簿記を学ぶ必要性を理解し、日常取引から決算までの簿記一巡の手続きについて学習する。  |
|    | I 期末<br>第2編 取引の記帳と決算 I                                | 取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続きを学習する。   |
|    | II 期中間<br>第3編 取引の記帳と決算 II<br>第4編 帳簿と伝票                | 補助簿の記帳法を学習し、日常取引の記帳のための基礎的な知識と技術を身につける。また、決算の意味や目的および基本的な決算整理を含む決算手続きを学習し、決算を行うための基礎的な知識と技術を身につける。 |
| 後期 | II 期末<br>第5編 取引の記帳と決算 III<br>第6編 本支店の会計<br>第7編 複合仕訳帳制 | 進んだ決算整理、特殊な取引の方法を学習する。   |
|    | 年次末<br>発展編 株式会社の記帳                                    | 株式会社の取引の記帳を学習する。   |

## 4 観点別評価

計148時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解  |
|---|---|---|--|
| 企業の経営活動における取引を帳簿に記録・計算・整理する技術に関心を持ち、簿記の一連の手続きについての学習に自ら進んで取り組もうとする。 | 企業における取引を簿記特有のルールから思考し、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、その成果を的確に表現している。 | 簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、企業における取引を合理的、能率的に記録・計算・整理し、適切に処理する能力を身につけている。 | 企業の経営活動における取引を帳簿に記録・計算・整理する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の一連の手続きを理解している。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、

- ①定期考査 ②授業に対する意欲・態度・身なり・言葉遣い ③提出物 ④検定試験などを総合的に判断して評価する。

|       |                   |    |        |           |                             |
|-------|-------------------|----|--------|-----------|-----------------------------|
| 学年    | 2学年               | 系列 | 総合ビジネス | 教科・科目・単位数 | 商業・ビジネス基礎・2単位               |
| 使用教科書 | ビジネス基礎 新訂版 (実教出版) |    |        | 副教材       | 全商珠算・電卓実務検定演習2・3級改定版 (実教出版) |

## 1 科目の目標

ビジネスに関する基本的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけさせるとともにビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

一斉授業

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

予習:教科書に目を通しておく。

復習:ノートの整理。練習問題の反復練習。

## ② 授業における学習方法

授業用のノートを作ること。

調査研究により、身近な事例でビジネスの諸活動を確認する。

## ③ 家庭学習のポイント等

新聞やニュースを通して世の中の情勢に関心を持つ。

## (3) 担当者からのアドバイス

考査前には復習できるように授業用ノートを工夫してつくること。

## 3 学習計画

| 考査 | 単元名(学習項目)                                  | 学習内容(ねらい)   |
|----|--|---|
| 前期 | I<br>期中間<br>第1章 商業の学習ガイダンス<br>第6章 売買に関する計算 | 商業を学ぶ目的や生徒の学習の動機付けを図る。<br>売買に関する仕入原価や利益額の計算などを習得させる。                                    |
|    | I<br>期末<br>第2章 経済と流通の基礎                    | 生産要素の希少性、経済主体の役割、ビジネスの役割と発展、流通の意義と役割、卸売業や小売業等のビジネスの担い手の役割などを取り扱い、経済と流通に関する基礎的な知識を習得させる。 |
|    | II<br>期中間<br>第3章 ビジネスの担い手                  |   |
| 後期 | II<br>期末<br>第4章 企業活動の基礎<br>第5章 ビジネスと売買取引   | 企業の責任について取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を習得させる。<br>売買取引を行う為の基礎的な知識と技術を習得させる。                        |
|    | 年<br>次末<br>第7章 ビジネスとコミュニケーション              | ビジネスに関する心構え、コミュニケーションの基礎的な方法を学習する。  |

## 4 観点別評価

計74時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解  |
|--|---|---|--|
| ビジネスについて関心を持ち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員として望ましい心構えや実践的な態度を身につけている。 | ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 | ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 | ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会の一員として望ましい心構えについて理解している。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、

①定期考査 ②授業に対する意欲・態度・身なり・言葉遣い ③提出物などを総合的に判断して評価する。

|       |               |    |        |           |                                     |
|-------|---------------|----|--------|-----------|-------------------------------------|
| 学年    | 2学年           | 系列 | 総合ビジネス | 教科・科目・単位数 | 商業・情報処理・5単位                         |
| 使用教科書 | 最新情報処理 (実教出版) |    |        | 副教材       | 全商情報処理検定テキスト2級<br>全商情報処理検定 模擬問題集 2級 |

## 1 科目の目標

ビジネスにおける情報の役割について学び、情報を積極的に活用できる表計算ソフトの操作、データの集約・分析能力、レポートの作成能力を身につける。

## 2 学習について

## (1) 授業形態

一斉授業／コンピュータ実習

## (2) 学習方法

## ① 予習・復習の方法

①教科書、問題集をじっくり読んで、意味のわからない語句などに線を引いておく。

②自宅にPCがあればコンピュータ実習しながら学習を進めておく。

## ② 授業における学習方法

板書を写すことはもちろん、解説をしっかりと聞いて疑問点を解決したり、予習での意味のわからない語句などを理解し覚えていくようにする。

## ③ 家庭学習のポイント等

①予習・復習の仕方に同じ

## (3) 担当者からのアドバイス

ほぼ毎日授業があり、どんどん進んでいくので休まないこと。

## 3 学習計画

| 考查 | 単元名(学習項目)                       | 学習内容(ねらい)  |
|----|---------------------------------|--|
| 前期 | I 期中間<br>第1章 情報の活用と情報モラル        | 情報を適切に活用する能力や身につけるべき情報モラルについて学ぶ。                                     |
|    | I 期末<br>第2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 | 情報通信ネットワークの概要とインターネットの利用方法と効果について学ぶ。                                 |
|    | II 期中間<br>第3章 ビジネス情報の処理と分析      | 表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作を学ぶ。<br>ビジネスに関する情報の処理と分析を行うための基礎的な知識と技術を習得する。   |
| 後期 | II 期末<br>第4章 ビジネス文書の作成          | 文書の表現および文書作成ソフトウェアの活用を取り扱い、基本となる情報を基に、ビジネス文書を作成するための基礎的な知識と技術を習得させる。 |
|    | 年次末<br>第5章 プレゼンテーション            | プレゼンテーション活動の目的や基礎について学ぶ。<br>プレゼンテーションソフトを活用し、その技法について学ぶ。             |

## 4 観点別評価

計183時間(48分授業)

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 技能   | 知識・理解   |
|--|--|--|---|
| ・ビジネス情報の収集、整理・加工、伝達に情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとする。 | ・情報をビジネスに活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。 | ・ワープロソフトウェアや表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身に付け、ビジネス情報の活用ができる。 | ・ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。<br>・ビジネスの基礎知識ならびにコンピュータのハードウェア、ソフトウェアやアプリケーションソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を身につけている。 |

## 5 評価方法

上記の観点をふまえ、

①定期考查 ②授業に対する意欲・態度・身なり・言葉遣い ③出席状況 ④検定試験  
総合的に判断して評価する。